

BUDŌ

# NEWS

## 今月のニュース



100kg超級・決勝三太田彪雅（旭化成、右）対影浦心（日本中央競馬会）

2024 年全日本選抜柔道体重別選手権大会



100kg 超級・決勝=太田（右）が縦四方固をしかける

100kg  
超級

# 太田彪雅（旭化成）が 激戦を制して2連覇

78kg  
超級

富田若春（コマツ）が5連覇

2024 年全日本選抜柔道体重別選手権大会

2024年全日本選抜柔道体重別選手権大会(主催)全日本柔道連盟が4月6・7日、福岡国際センター(福岡県福岡市)で開催された。男女各7階級のトーナメント戦が行われ、全日本柔道連盟から選抜された110名の選手(各階級8名、2名欠場。パリ五輪内定者は含まれず)が熱戦を繰り広げた。

男子100kg超級決勝では、太田彪雅(旭化成)が影浦心(日本中央競馬会)に縦四方固を極め、2連覇を達成した。

女子78kg超級決勝では、膝の怪我(けが)の手術から復帰した富田若春(コマツ)が新井万央(日本体育大学)を隅落で下し、5連覇を達成した。



▲78kg 超級・決勝＝富田(左)が隅落で技ありを奪う



◀60kg 級・決勝＝近藤(下)が一本背負投を決める

試合は国際柔道連盟試合審判規程に基づいて行われ、試合時間4分、時間内に決着がつかない場合は、時間無制限のゴールデンスコア(延長戦)以下、GS)にて勝敗が決するまで争われた。

## 男子決勝

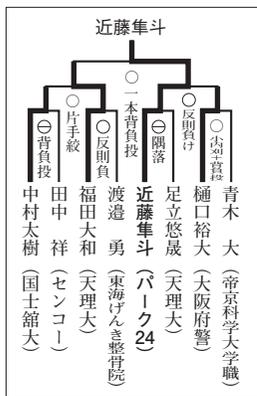
### ◆60kg 級 近藤が念願の初優勝

近藤隼斗(パーク24) ○(一本背負投) 福田大和(天理大学)

試合中盤、釣り手を取った近藤から福田がカウンターの袖釣込腰で技ありを先取。残り時間1分30秒、近藤が猛反撃を仕掛け、残り時間40秒で横落で技ありを奪い同点に追いつく。このままGSに持ち込まれるかと思われた残り時間2秒、近藤が渾身の一本背負投を決める。間もなく

#### ●優勝 近藤隼斗選手

「(福田選手に)技ありを取られた後) 何としても取り返す、という気持ちで攻め続けました。『退いたから負ける』と思って最後まで攻めた結果、最後に一本取れてよかったです。(新社会人として)パーク24に入社して)これからプロの道を進むので、オリンピックで金メダルを取ることを目標に頑張っています」



## ◆66kg級 田中龍馬が3年ぶりの優勝

田中龍馬 (SBC湘南美容クリニック) ⊖ (横車) 光岡岳人 (明治大学)

2021年大会以来の優勝に王手をかけた田中と大学3年生時に学生チャンピオンに輝き、初優勝を狙う光岡が対戦。実力伯仲の両者の試合は4分間では決着せず、GSに突入。互いに投技や固技を多彩に繰り出し合うも有効とはならず、こう着状態が続く。GSが間もなく10分を超えようとしたその瞬間、光岡が勢いよく攻めたところを、田中が後ろから抱え込み、横車で技ありを奪つ

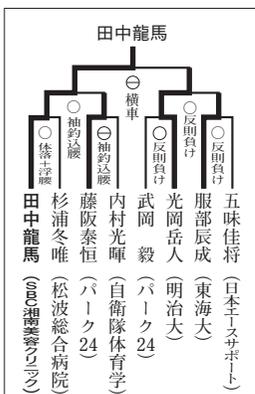
### ●優勝Ⅱ田中龍馬選手

「大学2年生の時にこの大会で優勝して以来、なかなか勝つことができず、目標としていたオリンピックや世界大会に手が届かなかった中で、今日の優勝はこれからの自分の柔道人生が大きく変わる優勝になったと思います。(光岡選手とは) 高校生の頃から試合をしてきたので、同じ九州代表として全日本の舞台で戦えたことをすごく嬉しく思います。今日の優勝は、目標としている(4年後の)ロサンゼルスオリンピックに向けて良いスタートになったと思います」



66kg級・決勝Ⅱ

田中龍馬(右)が横車を仕掛ける瞬間



## ◆73kg級 兄の優勝の勢いそのまま、弟・龍雅が初優勝を掴む

田中龍雅 (筑波大学) ○ (合わせ技) 内村秀資 (自衛隊体育学校)

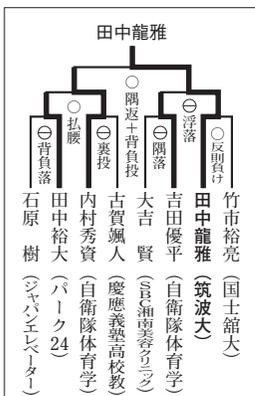
兄の優勝に続きたい田中龍雅と、昨年の実業団柔道選手権大会で個人優勝した内村が決勝を争う。中盤戦、田中が素早い足技から大胆に隅返に転じ、技あり。その後、内村も果敢に反撃を試みるが、田中が落ち着いて応じる。残り時間15秒、田中が一本背負投で再び技ありを奪い、勝利した。

### ●優勝Ⅱ田中龍雅選手

「兄が先に優勝しているのを見て、そのままの勢いで勝ち切ることができました。内村選手はフィジカル面など私より優れた部分が多かったので、攻撃的な柔道を意識して戦いました。兄との優勝もとても嬉しいですが、下に弟もいるので、いつか兄弟3人で優勝できるような頑張ります」



73kg級・決勝=田中龍雅(左)の一本背負投



# ◆81kg級 延長戦を制し、老野が2連覇

老野祐平（旭化成） ○（小外掛）

竹市大祐

（ジャパンエレベーターサービスホールディングス）



81kg級・決勝＝老野（左）が小外掛で一本を奪う



老野（右）が竹市の前襟を捉える

# ◆90kg級 田嶋が全試合一本勝ちで2連覇

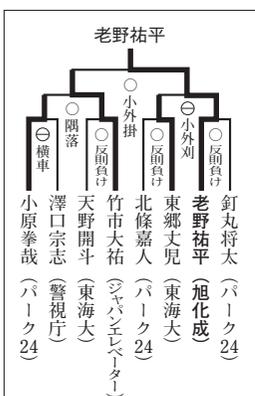
田嶋剛希（パーク24） ○（大外刈）

川端倅明（国士館大学）

2連覇を目指す老野と、準決勝で同階級強豪の小原拳哉（パーク24）を逆転で破った竹市による決勝。老野が積極的に攻撃を仕掛け、竹市も粘り強く耐えながら一本を狙う。試合はGSに突入して4分半が経過したその時、組み合ったところから老野が小外掛で一本。老野が2連覇に輝いた。

## ●優勝Ⅱ老野祐平選手

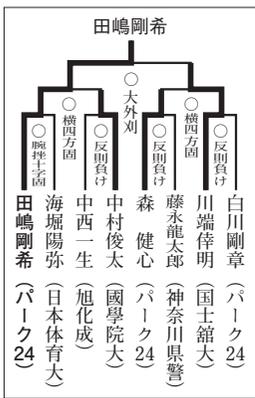
「素直に嬉しいです。（竹市選手は）これまで勝ったことのない相手でしたが、『何分やつても絶対に勝つ』という覚悟を持って戦いました。世界選手権に派遣されれば、絶対に優勝できるように準備していききたいと思います」



1回戦、準決勝とも時間内に一本勝ちを収め、圧倒的な力で勝ち上がった田嶋と、同階級最年少の川端が決勝で相まみえる。実力が拮抗する両者は、互いに有効な技を繰り出すことができず、試合は終盤戦へ。試合時間終了間際、田嶋が川端の横襟をしつかり捉え、大外刈で一本を決めた。残り時間1秒の一本勝ちに会場は大いに沸き返った。

## ●優勝Ⅱ田嶋剛希選手

「川端選手は地元（千葉県）の後輩で、私が高校生の時に彼は小学生でした。こんな大きな舞台で試合ができたことを本当に嬉しく思います。若い世代がすぐ後ろまで来ているような感じがしました。ただ、若手の選手たちにはまだまだ負けたくない」



「自分自身、まだ世界で結果を出せていないのもっと上を目指したいです。そして、この年齢でもまだまだやれるという姿勢を若い選手たちに見せていきたいです」



90kg級・決勝Ⅱ田嶋（手前）の豪快な大外刈が決まる

# ◆100kg級 増山が同大会3度目の優勝、

## 100kg級では初

増山香補 (パーク24) ○ (反則負け) 新井道大 (東海大学)

増山は過去の同大会では90kg級で出場し2度優勝を手に行っている。階級を100kg級に上げた増山と決勝を争うのは、昨年のグランドスラム東京で、初出場ながら2位に入賞し、パリオリンピック代表候補にも上がった。

増山は過去の同大会では90kg級で出場し、新井が浅く展開が続く。増山が指導1、新井が指導2を付与されGSへ。新井が消極的姿勢の指導を付与され、反則負けで決着。増山が同大会3度目、100kg級で初の優勝に輝いた。

### ●優勝II増山香補選手

「階級を」変えてからまだ1年ぐら이지만結果を出せてよかったです。本来1回戦で戦う予定だった飯田健太郎選手(旭化成、今大会は計量オーバーにより失格)が一番強いと思っていたので、まだトップになれるとは思っていません。また挑戦できるように頑張ります」

# ◆100kg超級 太田が接戦を制し、2連覇

太田彪雅 (旭化成) ⊖ (縦四方固) 影浦心 (日本中央競馬会)

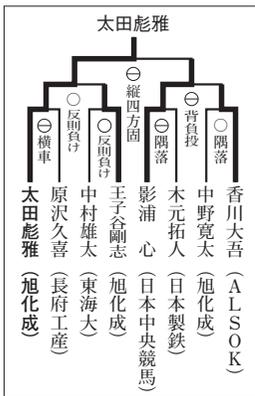
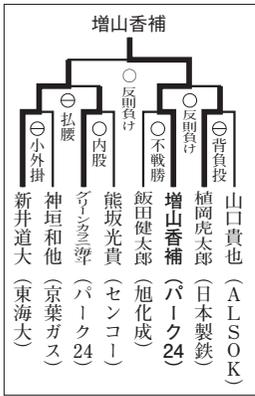
全日本選手権でも活躍する両選手は共に東海大学出身で、太田が二つ下の先輩・後輩対決となった。互いに手の内を知り尽くしている両者は、互いに攻めるタイミングを探り合う内に、両者消極的姿勢の指導が二つ付与され、互角のままGSに突入。こう着状態が続く中、影浦が体を下げた瞬間、太田が影浦の右腕を捉え縦四方固で押さえ込み、一本。2連覇を達成した。

### ●優勝II太田彪雅選手

「無事2連覇できてホッ



100kg級・決勝=増山(下)が新井を担いで一本を狙う



100kg 超級・決勝=太田(上)が影浦に技を仕掛ける

としています。1回戦から全てGSで苦しい戦いでしたが、勝ち切ることでできました。影浦先輩とは昔からよく対戦してお互いの内がわかっている状態でしたが、粘り強く戦えました。今年の世界選手権も優勝を目指して戦います」



## ◆57kg級 玉置がベテランの

### 意地を見せつける

玉置桃 (三井住友海上火災保険)

○ (隅返)

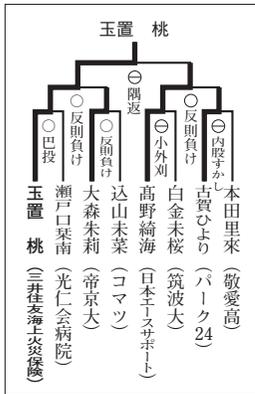
高野綺海

(日本エースサポート)

57kg級最年長の玉置と、前回大会女王の高野が対戦。序盤戦から両者の激しい組手争いが繰り広げられる。試合中盤、こう着状態から玉置が隅返で技ありを奪い優位に立つ。



57kg級・決勝=玉置(奥)が隅返の技ありで先制する



残り時間、必死に反撃を試みる高野に対し、玉置は応戦しながらもしつかりと技ありを守り切る。そのまま時間切れとなり、玉置が6年ぶり2回目の優勝を果たした。

#### ●優勝II玉置桃選手

「なかなか勝てない時期も、会社の方々や出稽古先の先生方や学生の方に応援をいただいたおかげで、自分を奮い立たせてもう一度優勝することができました。昨年は1回戦で高野選手と対戦して負けていたので、リベンジのつもりで挑みました。また世界選手権に向けて、鍛えていきたいと思っています」

## ◆63kg級 青野南美が地元で初優勝を飾る

青野南美 (福岡県警)

○ (内股)

堀川恵 (パーク24)

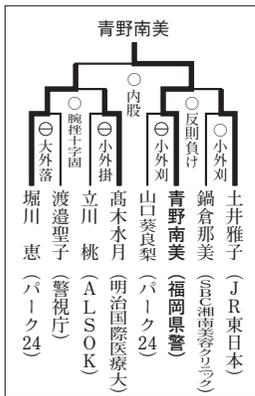
3度目の優勝を狙う堀川と、地元(福岡県)での初優勝まであと一勝まで迫る青野が決勝を戦う。多彩な技で攻め入るベテランの堀川に対し、青野は得意の足技で勝負する。

「世界で活躍できる選手になりたいです」

青野の鋭い足技に、堀川は極端な防御姿勢として指導二つが付与される。GSに突入し、堀川の足が上がつた瞬間を、青野が得意とする内股で持ち上げると、見事に一本。青野が嬉しい初優勝を果たした。

#### ●優勝II青野南美選手

「地元で優勝することができて嬉しいです。(会場で応援していた恩師の日下部基栄福岡大学女子柔道部監督について) 1回戦からずっと応援の声が聞こえていて、お世話になった監督のためにも優勝したいと思っ



▼63kg級・決勝=青野(上)が得意の内股で勝利



# ◆70kg級 田中が2年ぶりの優勝

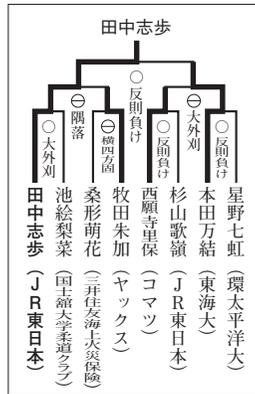
田中志歩 (J R 東日本) ○ (反則負け) 本田万結 (東海大学)

中量級の選手として過去に皇后盃で優勝した経験を持つ田中と、昨年の全日本ジュニアや世界ジュニアをはじめとする数々のジュニア大会でタイトルを獲得している本田が決勝で相まみえる。70kg級のベテラン・田中の技を懸命にかわす本田が、消極的姿勢の指導を二つ付与され、本戦が終了。GSに突入してもなお、実力伯仲の両者の試合は一本が決まらず、本戦と合わせて10分を超える激戦となる。肩で息をしているのが見てとれるほど、両者とも疲弊している中、田中が渾身の力を振り絞っている中、

## ●優勝 田中志歩選手

「東京から応援に来てくれたJ R 東

日本の仲間の皆さんのおかげで優勝できて嬉しいです。(寝技が得意な本田選手との試合について) 粘り強くて簡単には投げさせてくれなかったもので、気持ちで勝とうと頑張りました。本田選手より年上であることの意地で勝つことができました。世界選手権に選んでいただければ、優勝を目指します」



70kg級・決勝＝田中(左)が渾身の力で投げ技を放つ

## 日本武道館の単行本

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

# マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授  
田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一  
吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！



B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課まで  
TEL 03-3216-5147

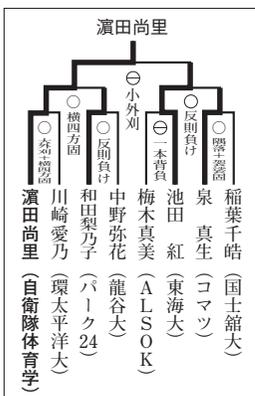
# ◆78kg級 濱田が2年ぶりの優勝で涙

濱田尚里（自衛隊体育学校） ⊖（小外刈） 池田紅（東海大学）

東京2020オリンピック金メダリストの濱田と、昨年は皇后盃3位、講道館杯3位と好成績を残した池田が決勝を争う。試合序盤から池田が組手を取り攻めるところを、濱田が小外刈で技ありを奪う。早々に優勢に立った濱田に対して、池田は



78kg級・決勝＝試合序盤で濱田（上）が小外刈で先制する



●優勝Ⅱ濱田尚里選手  
「最近はず調子が上がらず負けが続いていたので、この大会は絶対優勝するという気持ちで臨みました。今まで一番嬉しい優勝かもしれません。池田選手はとても強い相手だと思っていたので、最後まで気持ちで負けないようにと戦いました。自分の強い時の柔道をこれからも出せるように頑張ります」

# ◆78kg超級 富田が復帰戦ながら5連覇を達成

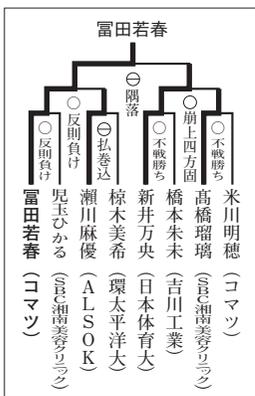
富田若春（コマツ） ⊖（隅落） 新井万央（日本体育大学）

膝の怪我で長らく試合から遠ざかっていた4連覇中の富田と、今年のグランドスラム東京で優勝した新井による決勝。GSに突入り、試合時間1分が経過。新井が背負投を仕掛けるも体制が崩れてしまう。その瞬間を見逃さなかった富田は隅落で技ありを奪い、勝利。盤石の強さで、5年連続で優勝を手にした。



78kg超級・決勝＝富田（左）が新井の袖を捉えて攻めにかかる

●優勝Ⅱ富田若春選手  
「12月に膝の手術をして、4月のこの大会が復帰戦になったのですが、期間が短く、試合に間に合うかどうか不安でしたが、その中で優勝することができました。世界選手権ではまだ金メダルを取ったことがないので、今年は優勝したいと思います」



【大会入賞者】					
◆男子	優勝		2位	3位	
100 <sup>+</sup> kg級	太田彪雅 (旭化成)	(2連覇)	影浦心 (日本中央競馬会)	香川大吾 (ALSOK)	王子谷剛志 (旭化成)
100kg級	増山香補 (パーク24)	(初優勝)	新井道大 (東海大)	植岡虎太郎 (日本製鉄)	グリーンカラニ海斗 (パーク24)
90kg級	田嶋剛希 (パーク24)	(2連覇)	川端倅明 (国士舘大)	森 健心 (パーク24)	中村俊太 (國學院大)
81kg級	老野祐平 (旭化成)	(2連覇)	竹市大祐 (ジャパンエレベーターサービス)	東郷丈児 (東海大)	小原拳哉 (パーク24)
73kg級	田中龍雅 (筑波大)	(初優勝)	内村秀資 (自衛隊体育学校)	吉田優平 (自衛隊体育学校)	田中裕大 (パーク24)
66kg級	田中龍馬 (SBC湘南美容クリニック) (2回目)		光岡岳人 (明治大)	服部辰成 (東海大)	藤阪泰恒 (パーク24)
60kg級	近藤隼斗 (パーク24)	(初優勝)	福田大和 (天理大)	樋口裕大 (大阪府警)	中村太樹 (国士舘大)
◆女子					
78 <sup>+</sup> kg級	富田若春 (コマツ)	(5連覇)	新井万央 (日本体育大)	高橋瑠璃 (SBC湘南美容クリニック)	瀬川麻優 (ALSOK)
78kg級	濱田尚里 (自衛隊体育学校)	(4回目)	池田 紅 (東海大)	泉 真生 (コマツ)	和田梨乃子 (パーク24)
70kg級	田中志歩 (JR東日本)	(2回目)	本田万結 (東海大)	西願寺里保 (コマツ)	牧田朱加 (ヤックス)
63kg級	青野南美 (福岡県警)	(初優勝)	堀川 恵 (パーク24)	土井雅子 (JR東日本)	高木水月 (明治国際医療大)
57 <sup>+</sup> kg級	玉置桃 (三井住友海上火災保険)	(2回目)	高野綺海 (日本エースサポート)	古賀ひより (パーク24)	大森朱莉 (帝京大)
52kg級	白石 響 (コマツ)	(3連覇)	大森生純 (JR東日本)	藤城心 (三井住友海上火災保険)	武田亮子 (コマツ)
48 <sup>+</sup> kg級	古賀若菜 (JR東日本)	(2回目)	宮木果乃 (日本大)	稲垣若菜 (桐蔭横浜大)	近藤美月 (東海大)

# ○2024年世界選手権大会

## 代表メンバーが決定

4月8日に強化委員会が実施され、本大会の結果をもとに、今年5月19日から24日にアラブ首長国連邦(UAE)・アブダビで開催される世界柔道選手権大会の日本代表選手を決定した。

本大会の上位入賞者が代表選手として選ばれた他、昨年のグランドス

ラム東京で優勝し、パリオリンピック代表選手に内定した永山竜樹(57kg級)が、66kg級代表選手として出場することが決定した。

各階級および団体戦出場選手については次の通り。

### 【男子】

- 100kg 超級 太田彪雅 (旭化成)
- 100kg 級 新井道大 (東海大学)
- 90kg 級 田嶋剛希 (パーク24)
- 81kg 級 老野祐平 (旭化成)
- 73kg 級 石原 樹 (ジャパンエレベーターサービスホールディングス)
- 66kg 級 田中龍馬 (SBC湘南美容クリニック)
- 武岡 毅 (パーク24)
- 60kg 級 永山竜樹 (SBC湘南美容クリニック)
- 中村太樹 (国士舘大学)

### 【女子】

- 78kg 超級 富田若春 (コマツ)
- 新井万央 (日本体育大学)
- 78kg 級 濱田尚里 (自衛隊体育学校)
- 70kg 級 田中志歩 (JR東日本)
- 63kg 級 堀川 恵 (パーク24)
- 57kg 級 玉置 桃 (三井住友海上火災保険)
- 52kg 級 白石 響 (コマツ)
- 大森生純 (JR東日本)
- 48kg 級 古賀若菜 (JR東日本)

### 【団体戦】

- 90kg 超級 中野寛太 (旭化成)
- 90kg 級 川端倅明 (国士舘大学)
- 73kg 級 田中龍雅 (筑波大学)
- 70kg 級 本田万結 (東海大学)
- 57kg 級 高野綺海 (日本エースサポート)

## 第46回全国高等学校柔道選手権大会

男子  
団体

# 埼玉栄が初優勝



男子団体決勝・代表戦＝埼玉栄・平野匠啓（上）が大内刈を決め、代表戦を制する

第46回全国高等学校柔道選手権大会が3月19日（個人戦）・20日（団体戦）、日本武道館で開催された。

男子団体決勝では、埼玉栄（埼玉）が足立学園（東京）を代表戦の末に下し、初優勝に輝いた。女子団体決勝では、比叡山（滋賀）が敬愛（福岡）をこちらも代表戦で下し、念願の初優勝を果たした。

男子個人無差別級では、1年生の三木清夢（千葉・木更津総合）が初出場で初優勝を達成。女子個人戦57kg級では本田里來（福岡・敬愛）が連覇を達成した。

### ◆団体戦（20日）

試合は、男子が体重無差別の5名編成による点取り試合、女子が3名の体重別（先鋒Ⅱ52kg以下、中堅Ⅱ63kg以下、大将Ⅱ無差別）による点取り試合のトーナメント方式で行われた。

判定基準は「技あり」または「僅差（指導差2）」以上で勝負を決した。試合時間は男女ともに3分間で行われた。



男子団体決勝・副将戦＝平野（左）と中谷の組手争い



男子団体決勝・大将戦＝宮部（上）と北村の試合

○男子

試合は56チームが出場。決勝は、埼玉栄と足立学園の初優勝をかけた対戦となった。

●決勝

埼玉栄(埼玉)○代表戦 足立学園(東京)  
堀 悠隼 引分 荒川 琉正  
饒平名和貴 引分 嶋貫 蓮  
渡邊蒼織 引分 鍋木克優  
平野匠啓 ①僅差 中谷雅夢  
北村斗麗 ②僅差 宮部蓮匠  
平野匠啓 ○大内刈 鍋木克優

先鋒戦は埼玉栄・堀悠隼と前日の個人73kg級で優勝を果たした足立学園・荒川琉正の対戦。序盤から激しい寝技の攻防が展開される。体格で不利な荒川は、果敢に技を仕掛けるもポイントを奪えない。一方の堀も決め手に欠き、試合は引分で終了した。

続く次鋒・中堅戦ともに引分となり、迎えた副将戦は、埼玉栄の主将であり、昨年のインターハイ100kg級王者の平野匠啓と足立学園・中谷雅

夢の対戦。試合は、お互いに技を仕掛けるも、相手を崩しきれない。残り時間1分20秒のところで、中谷が極端な防御姿勢をとったため指導1。その後残り時間44秒で、中谷が平野の圧力に堪らず下がると、場外に出てしまい指導2。なんとか食らいつきたい中谷であったが、そのまま試合終了。平野が僅差で勝利した。

埼玉栄が勝てば優勝が決まる大将戦は、足立学園・宮部蓮匠と埼玉栄・北村斗麗の対戦。開始早々、宮部が圧力をかけていき、北村が場外に出てしまい指導1。その後ポイントが動かないまま残り時間41秒、宮部が果敢に足技を仕掛け、北村がかわず

ことに精いっぱいになると、またしても場外に出てしまい指導2。その後は北村も攻め続けるも、時間切れで試合終了。終始落ち着いた試合運びを見せた宮部が、代表戦に望みをたぐ僅差で勝利した。

代表戦は、埼玉栄・平野と、昨年8月に開催された東アジアユースゲームズの81kg超級で優勝を果たした足立学園・鍋木克優の対戦。激しい攻防が続く中、試合開始1分ほどが経過したところで、平野が渾身の太

内刈を決めて勝利。代表戦を制した埼玉栄が、悲願の初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ埼玉栄・川原篤監督

「みんな一人一人が全力で戦ってき、絶対やってくれると信じていました。決勝は先取点を取ることと、絶対に失点してはいけないということとを念頭に置き、攻撃型のオーダーを組みました。主将の平野も言っていました、私生活から柔道の稽古まで、真面目に取り組んできた成果があらわれた結果だと思っています。

今、畳の上には選ばれた6人だけが、部員全員が日本一を目指して日々努力してくれました」

◎優勝Ⅱ埼玉栄・平野匠啓選手

「絶対勝つてやると思っていたので、よかったです。決勝まではチームメイトに助けてもらっていたので、決勝では絶対に自分が決めてやるという気持ちで臨みました。私生活から柔道の稽古まで全て引き締め変えていったので、その成果が出たかなと思います」



女子団体決勝・代表戦＝比叡山・大井彩蓮（上）が小内刈で技ありを奪い、比叡山が初優勝を決める

○女子

試合は51チームが出場。決勝は、初優勝を狙う比叡山（滋賀）と、2016年以來の優勝を目指す敬愛（福岡）の対決。

●決勝

比叡山（滋賀）	○代表戦	敬愛（福岡）
大井彩蓮	引分	大塚翔稀
木村穂花	引分	本田里來
柴田さち	引分	山口千弘
大井彩蓮	○技あり	大塚翔稀

先鋒は、前日の個人52kg級で準優勝の比叡山・大井彩蓮と敬愛・大塚翔稀の対戦。序盤から大井が激しい攻めをみせるも、大塚も何とか粘り両者ポイントを奪えないまま試合終了。先鋒戦は引分となる。

続く中堅戦は、前日の個人戦63kg級で優勝を果たした比叡山・木村穂花と、個人戦57kg級で連覇を達成した敬愛・本田里來の王者同士の対戦。木村が果敢に内股を攻めるが、決めきれない。一方、本田も階級上の相手に攻めの姿勢で挑むも、両者ポイントを取れず引分に終わる。

大将戦は、63kg級の比叡山・柴田

さちと、無差別級の敬愛・山口千弘の体格差のある対戦となった。ここで決めたい山口は果敢に攻めるが、柴田が脅威の粘りで階級上の相手に食らいついていく。結局両者ポイントは奪えずに試合終了。決着は代表戦に委ねられた。

代表戦は抽選の結果、先鋒の大井と大塚の対戦。先鋒戦と同様に序盤から大井が果敢に攻める。そして開始2分を迎えるところで、大井が小内刈で技ありを奪い勝利。比叡山が初の栄冠を手にした。

◎優勝Ⅱ比叡山・米富和郎監督

「個人戦の疲れもあったと思いますが、今日はチーム一丸となつて頑張ってくれました。先鋒・中堅戦で勝負を決めたかったです、とれなかったのが大将の柴田にはなんとか代表戦に繋いでほしいことと、精いっぱいやってほしいと伝えました。本当によく頑張ったと思います。最後、代表戦が先鋒になったので、ここで初優勝を決めるという強い気持ちで送り出しました。全員が自分の力を出し切って、応援を力に変えることができた結果だと思います」



男子個人無差別級決勝＝三木（右）が大外刈で一本勝ち。



男子個人66kg級決勝＝福地（奥）が寝技で攻め、横四方固めで一本勝ち。



男子73kg級決勝Ⅱ荒川（下）が寝技で優位に立ち、横四方固めで勝利

## ◆個人戦（19日）

男女とも体重別4階級と無差別級の5部門により、トーナメント方式で争われた。試合時間は3分間、時間内に勝負が決しない場合は、時間無制限のゴールデンスコア（以下、GS）によって競われた。

### ○男子

#### ▽60kg級

決勝は吉村悠之介（大分・柳ヶ浦）と長谷川護希（足立学園）の対戦。試合は吉村指導2、長谷川指導

1で本戦が終了。GSに入り、後がない吉村が前に出て攻める。一方の長谷川は、中々攻めきれず、苦戦する。長谷川にGSで三つ目の指導が入り、吉村が劣勢から勝利した。

#### ▽66kg級

決勝に残ったのは、福地駿多朗（東京・修徳）と大柿将馬（神奈川・東海大相模）。試合は福地が横四方固めで大柿を制し、優勝を果たした。

#### ▽73kg級

決勝は荒川琉正（足立学園）と徳田憲政（愛知・大成）の一戦。試合中盤、うつ伏せになった徳田を荒川がひっくり返し、そのまま横四方固

めで勝利。寝技で荒川が強さをみせつけ、初の栄冠を手にした。

#### ▽81kg級

決勝は、野澤貴哉（東海大相模）と昨年準優勝の中田涼太（栃木・白鷗大足利）の対決。本戦で決着がつかず、試合はGSに突入。GS3分が経過したところで、野澤が中田を抑え込んで技ありで勝利。しぶとく食らいつき、初の優勝を掴んだ。

#### ▽無差別級

決勝は、ここまで全て一本勝ちの1年生の三木清夢（木更津総合）と寺本竜彦（広島・崇徳）の対戦。試合はお互い決め手に欠き、GSに入る。GS39秒、三木が大外刈を決めて勝利。前回大会で優勝した兄・三木望夢に続いて1年生ながら初の王座に輝いた。

#### ◎無差別級優勝Ⅱ三木清夢

（千葉・木更津総合）

「支えてくれた人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。1年生で優勝するのは難しいと思いましたが、一番元氣出して明るく試合しようという気持ちで臨みました」



女子個人 48kg級決勝=井上(上)が小内刈で技あり



▶女子57kg級決勝Ⅱ本田(上)が技あり獲得後も攻め続ける



▶女子(個人)無差別級決勝Ⅱ井上(左)が小外刈を決めて一本勝ち



無差別級  
決勝はここまでオール一本勝ちの井上朋香(佐賀商業)と田中麗奈(敬愛)の対戦。試合開始30秒、井上が小外刈を決めて一本勝ち。井上は決勝を終えて、全ての試合をGS無し、一本勝ちという圧巻の強さで、無差別級の頂に立った。

○女子

▽48kg級

井上愛翔(徳島・生光学園)と近藤杏樹(長崎・長崎明誠)の決勝。井上が中盤に、小内刈で技ありを奪う。その後も井上は攻めの姿勢を崩さず、近藤に技を仕掛けていく。近藤は反撃にでて追いつきたかったが、ポイントを奪えず試合は終了。井上が1年生にして大会制覇を成し遂げた。

▽52kg級

決勝は納庄千寿(長野・佐久長聖)と大井彩蓮(比叡山)の顔合わせ。本戦は両者技の決め手に欠き、GSへ。GS17秒、大井が果敢に攻め技を仕掛けた戻り際に、納庄が体落として返して技ありで勝利。嬉しい初優勝に輝いた。

▽57kg級

決勝は前回大会王者で連覇を目指す本田里来(敬愛)と鈴木ケイ(佐

久長聖)の組み合わせ。両者、粘りを見せる中、試合が動いたのは残り時間1分を切った時、本田が大内刈を決めて、技ありを奪取。連覇を大きく手繰り寄せる。その後何とかポイントを取りたい鈴木であったが、一歩及ばず試合終了。本田が技ありを守りきり、連覇を達成した。

◎57kg級優勝Ⅱ本田里来(福岡・敬愛)「昨年のインターハイを終えてから、この選手権で連覇することを目

▽63kg級

木村穂花(比叡山)と清水優陸(佐賀・佐賀商業)の昨年のインターハイ決勝と同じ顔合わせ。インターハイでは清水が勝利している。お互いに一歩も譲らず、試合はGSに突入。GS4分30秒、木村が内股で技ありを獲得し勝利。激闘を制し、昨年のリベンジを果たした木村が栄冠を手にした。

指して稽古してきたので、達成できてよかったです。今後は昨年優勝できなかったインターハイと世界ジュニア優勝を目指して頑張ります」



団体女子優勝=比叡山（滋賀）



団体男子優勝=埼玉栄（埼玉）



個人女子優勝者（左から=48kg級・井上、52kg級・納庄、57kg級・本田、63kg級・木村、無差別級・井上）



個人男子優勝者（左から=60kg級・吉村、66kg級・福地、73kg級・荒川、81kg級・野澤、無差別級・三木）

### 【大会結果】

- 男子団体Ⅱ①埼玉栄（埼玉）②足立学園（東京）③大成（愛知）、福岡大大濠（福岡）
- 女子団体Ⅱ①比叡山（滋賀）②敬愛（福岡）③木更津総合（千葉）、佐賀商業（佐賀）

#### ○男子個人

- ▽60kg級Ⅱ①吉村悠之介（大分・柳ヶ浦）②長谷川譲希（東京・足立学園）③池内雷基（栃木・白鷗大足利）、山本風来（愛知・大成）
- ▽66kg級Ⅱ①福地駿多朗（東京・修徳）②大柿将馬（神奈川・東海大相模）③高橋嬉有（山形・新庄東）、大塚康平（茨城・水戸啓明）
- ▽73kg級Ⅱ①荒川琉正（東京・足立学園）②徳田憲政（愛知・大成）③宮永啓吾（佐賀・佐賀商業）、布木颯汰（大阪・上宮）
- ▽81kg級Ⅱ①野澤貴哉（神奈川・東海大相模）②中田涼太（栃木・白鷗大足利）③川合遼（静岡・静岡学園）、竹吉瑞樹（東京・国士館）

- ▽無差別級Ⅱ①三木清夢（千葉・木更津総合）②寺本竜彦（広島・崇徳）③山本由聖（東京・国士館）、堀悠隼（埼玉・埼玉栄）

#### ○女子個人

- ▽48kg級Ⅱ①井上愛翔（徳島・生光学園）②近藤杏樹（長崎・長崎明誠）③赤座杏奈（岐阜・美濃加茂）、新井優菜（千葉・八千代）
- ▽52kg級Ⅱ①納庄千寿（長野・佐久長聖）②大井彩蓮（滋賀・比叡山）③錦杏樹（兵庫・東洋大姫路）、荒川遥楓（岡山・創志学園）
- ▽57kg級Ⅱ①本田里来（福岡・敬愛）②鈴木ケイ（長野・佐久長聖）③前田琳音（徳島・生光学園）、中村和音（滋賀・比叡山）
- ▽63kg級Ⅱ①木村穂花（滋賀・比叡山）②清水優陸（佐賀・佐賀商業）③織茂永愛（神奈川・桐蔭学園）、榊原佑月（愛知・大成）
- ▽無差別級Ⅱ①井上朋香（佐賀・佐賀商業）②田中麗奈（福岡・敬愛）③西野愛華（愛知・大成）、小出穂香（山梨・富士学苑）

# 第6回外国人留学生等対象

# 国際武道文化セミナー

## 武道に触れて感じたその精神



体験武道・相撲



柔道



剣道



なぎなた



「武道の歴史と特性」



「武道の礼法」

### 体験武道

### 講義

#### ■ 1日目

外国人留学生と在日大使館に勤務する外国人を対象とした第6回外国人留学生等対象国際武道文化セミナー（主催Ⅱ日本武道館、後援Ⅱスポーツ庁、外務省、千葉県勝浦市、日本武道協議会、協力Ⅱ国際武道大学）が3月1～3日、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で開催された。

今回はアジア、ヨーロッパ、アフリカなど26の国と地域から55名が参加。講義、模範演武、9種目の武道体験と盛りだくさんのスケジュールに、参加者は一つ一つ真剣に取り組み、日本の伝統文化である武道への理解を深めていた。

午後2時に開講式を行い、式終了後、講義(1)、続けて、体験武道を実施した。武道未経験の参加者は初めての武道体験に心を躍らせ、精いっぱい稽古に励んだ。

#### ■ 講義(1)「武道の歴史と特性」

（藤堂良明講師）

藤堂講師は、柔道や剣道、弓道、

## ■ 講義(1)「武道の歴史と特性」



藤堂良明講師  
(筑波大学名誉教授)



江戸時代に着用されていた形の柔術の稽古着を参加者が着用



18世紀の「しない打ち込み剣術稽古」の説明をする藤堂講師

なぎなたをはじめとした武道の歴史をたどりながら、武道の成り立ち、特性について解説した。

### ▽質疑応答

Q. 1600年頃に各藩で行われていた武術について、教えてください。

A. 当時の武術には弓・剣・槍・柔術・砲術など18種類ほどありましたが、各藩の藩主が五つほどに絞って、その中から武士にいくつかを選択させて学ばせていました。

Q. 柔術の由来について教えてください。

A. 柔術は900年頃に、刀が折れ、弓の矢が尽きた時に素手で戦った組討ちを由来としています。そしてもう一つ、外国からの当身技などを組み合わせて1600年以降に柔術が生まれました。当時の柔術は全部で160ほどの流派がありました。

Q. 武士道精神は現代の武道にも関係していますか。

A. 武士道精神は江戸時代のもものが多く、「自分に勝つ」「潔く戦う」「礼節」「誠実」などが現在の武道にも色濃く残っていると思います。

## ■ 講義(2) 「武道の礼法」



小笠原清基講師  
(弓馬術礼法小笠原教場  
第31世宗家嫡男)



正しい姿勢について説明する小笠原講師



開いた足を戻す動作に苦戦



正座する参加者



▶ 身体を真っすぐにしたまま座る動作と立つ動作を練習する参加者たち

### ■ 2日目

まず、大道場で各道の講師による模範演武が行われた。模範演武は弓道から始まり、少林寺拳法、銃剣道、空手道、なぎなた、剣道、柔道、合気道、相撲の順に行った。講師の洗練された演武に、参加者は目を輝かせ、時にはカメラに収めながら見学した。演武終了後は体験武道、続いて講義(2)、再び体験武道を行った。

#### ■ 講義(2) 「武道の礼法」

(小笠原清基講師)

小笠原講師が小笠原家の歴史、礼法について座学を行った後、参加者は小笠原流礼法を実際に体験。参加者たちは慣れない身体運動を要する礼法に苦戦しながらも、興味深そうに体験した。

#### ▽ 質疑応答

Q. 初代宗家の時代と現在で異なっている部分がありますか。

A. 違いはあります。当時と現在では、時代背景が異なるため、絶対的に変えない芯の部分を守りつつ、時代に合わせて変化させることが文化の継承だと思えます。

■  
体験武道



キレのある中段蹴り（空手道）



大剣豪の風格（剣道）



必死に押し出し（相撲）



研ぎ澄まされた一射（弓道）



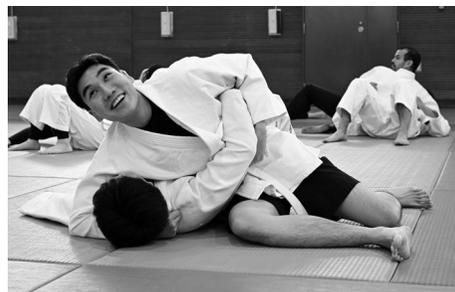
力強い突き（少林寺拳法）



メンの掛け声とともに（なぎなた）



合気道の動きを体感



抑え込みで一本勝ち（柔道）



一点に集中して直突（銃剣道）



講師とセミナー参加者で記念撮影

講師模範演武



弓道



少林寺拳法



相撲



空手道



銃剣道

▽質疑応答

Q: 他の武道を稽古に取り入れたいか。知っていますか。

A: 相撲は、武道ではない他のスポーツを稽古に取り入れていきます。立ち合いの際に、瞬発力が重要になるので、陸上の短距離走を取り入れたいです。(相撲・伊東講師)

柔道の場合は、9 武道には含まれませんが、寝技の強化のためブラジリアン柔術を習いに行ったりします。また、柔道が強いと相撲の先生に声をかけられ、相撲の大会に駆り出されることもあります。下半身強化に役立っていると思います。(柔道・金丸講師)

Q: 合気道で袴を着けている理由が知りたいです。

A: 袴を着けることは日本の伝統文化であり、私たちの中で正装です。合気道が創建された当初は、最初から袴を着けて稽古していましたが、袴を着けることがモチベーションになるという考えから、現在は女性は級を取ったら、男性は初段になったら袴を着けられます。(合気道・入江講師)

日本武道館発行の単行本

# 武道の礼法

小笠原 清忠  
(弓馬術礼法小笠原教場  
三十一世宗家)  
著

相手に誠心が響く礼法を小笠原流礼法宗家が  
直々に指南する、武道関係者必読の一書。



小笠原 清忠  
武道の礼法

四六判・上製278頁  
定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部  
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158  
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



柔道



なぎなた



合気道



剣道

## 参加者意見発表



ジョセフ・チクウェンバさん  
(マラウイ共和国・駐日大使館)

「このようなささまざまな国の人々を集めるのはとてもいいことだと思えます。武道文化だけではなく、礼法、自他共栄、自分を律することなどセミナーを通じて身につけることができると思います。日本は先進国であり、昔からの伝統文化も大切にしています。今回の体験を通じて、世界を良くするために武道を普及することが必要なのではないかと感じています。武道は失敗を恐れないことを教えてくださいました。人生で前進するために他の人と対立する必要はないこと、そして、武道の稽古は相手を敬うことを教えてくださいました。私には2人の子どもがいます。ある時、子どもが学校から帰宅して、すごく興奮していたので、どうしたのかと聞

くと学校で空手道を習ったと聞ききました。しばらくして子どもを見ていて感じたのは、空手道を通じて、すごく生活態度が良くなったことでした。その様子を見て、アフリカの国々でも武道を普及させたいと思いました。武道によって、精神的な成長が見込めることで、武道が世界の平和の一助になるのではないかと感じました。世界の人々に武道を習ってほしいです」



ジン・アンさん  
(韓国・京都教育大学)

「私は韓国で小学校の教師をしています。日本のアニメで剣道や弓道をやっている姿を見て、いつか体験したいと思っていましたが、学んだことがなかったためハードルが高かったです。そのため、今回の武道セミナーに参加できてよかったです。特に少林寺拳法やなぎなたなど初めて知る武道に触れることができ、とて

も嬉しかったです。必死に技を覚えているうちに体験時間があっという間に過ぎましたが、武道の精神とその意味を感じることができました。先生方が親切かつ丁寧に教えてくださったことにとても感謝しています。全てのことはきっかけが重要だと思っています。今回のセミナーを通じて、多くの外国人留学生が、これから武道を生活の一部として楽しむきっかけになることを願っています」



スティーブ・アブードさん  
(アメリカ・東京大学)

「武道体験でたくさん失敗しましたが、その失敗が成功するための糧になりました。武道の修行は、過去や未来への不安を取り払い、現在に向き合うことを教えてくださいました。武道を通じて皆様の人生がより良くなる事を願っています」

## 3日目

はじめに体験武道を実施。参加者は9武道全てを体験し、疲れた様子を見せながらも、満足の笑みを浮かべた。次に参加者意見発表に移り、セミナー参加のきっかけや、武道に対する印象、セミナーの感想などを代表者が発表した。

最後に閉講式では、セミナー参加者に参加証が授与され、3日間のセミナーは終了した。



参加者を代表して参加証を受け取るハフサ・リフキさん(モロッコ)

◎参加者コメント

▼ソフィア・ガフル（スイス）



「武道についてもっと知りたくて、参加しました。一番印象に残ったのは相撲です。スイスでは見られないので、新鮮でした。実際に体験してみても楽しかったです」

「武道についてもっと知りたくて、参加しました。一番印象に残ったのは相撲です。スイスでは見られないので、新鮮でした。実際に体験してみても楽しかったです」

▼アンドリアナ・ホルブカ（ウクライナ）



「先生からこのセミナーについて聞き、去年も参加しました。私は武道に興味があり、去年参加してみても楽しかったです。今年も参加しました。武道体験の時に講師の方や、学生の皆さんが優しく教えてくれたことが印象的でした」

▼東吾ガントルガ（モンゴル）



「私は母が日本人で、さまざまな日本文化を教えてもらっていました。今回は自発的に日本の文化を学びたいと思い、このセミナーに参加しました。最初は武道は戦

うためのものだと思っていました。が、セミナーに参加して、自分の心身を鍛えるといった意義があることを学び、印象的でした」

うためのものだと思っていました。が、セミナーに参加して、自分の心身を鍛えるといった意義があることを学び、印象的でした」

▼キン・シャ（中国）



「日本文化を知りたくて参加しました。学校からの案内でセミナーを知りました。武道は自分との勝負ということを学びました。自分分は合気道に興味を持ちました。また、体験してみても楽しかったです」

「日本文化を知りたくて参加しました。学校からの案内でセミナーを知りました。武道は自分との勝負ということを学びました。自分分は合気道に興味を持ちました。また、体験してみても楽しかったです」

▼ホアン・オアン・ファム（ベトナム）



「今回初めて参加して、3日間いろいろな体験できてよかったです。一番好きなのは少林寺拳法です。少林寺拳法は護身術なので、日常でも役に立ちそうだなと感じました。今年、ベトナムで少林寺拳法の大会があるみたいなので、時間があれば参加したいです」

「今回初めて参加して、3日間いろいろな体験できてよかったです。一番好きなのは少林寺拳法です。少林寺拳法は護身術なので、日常でも役に立ちそうだなと感じました。今年、ベトナムで少林寺拳法の大会があるみたいなので、時間があれば参加したいです」

▼ムフシン・マストウール（モロッコ）



「セミナーをすごく楽しみにしていました。以前から柔道を始めて、講道館で稽古をしています。以前は三つの武道しか知りませんでした。今回のセミナーを通じて、九つの武道を学ぶことができました」

「セミナーをすごく楽しみにしていました。以前から柔道を始めて、講道館で稽古をしています。以前は三つの武道しか知りませんでした。今回のセミナーを通じて、九つの武道を学ぶことができました」

した。武道の精神性、自分を律することによって、感銘を受けました」



- 柔道＝金丸 雄介（六段）了徳寺大学准教授
- 熊代 佑輔（六段）国際武道大学助教
- 剣道＝濱崎 満（範士八段）全日本剣道連盟常任理事
- 丸橋 利夫（教士八段）国際武道大学教授
- 弓道＝増渕 敦人（範士八段）全日本弓道連盟中央委員
- 福地 平（教士八段）全日本弓道連盟中央委員
- 相撲＝伊東 良（五段）日本体育大学スポーツ文化学部助教
- 山口 颯斗（弐段）日本体育大学相撲部
- 空手道＝渡邊 純一（教士七段）千葉県空手道連盟副理事長
- 峯 真太郎（教士七段）群馬県空手道連盟競技力向上委員会委員長
- 合気道＝入江 嘉信（七段）合気会・合気道本部道場指導部師範
- 小山 雄二（六段）合気会・合気道本部道場指導部師範
- 少林寺拳法＝荒井 章士（正範士七段）少林寺拳法世界連合事務総長
- 加藤 明（准範士六段）SHORINJI KENPO UNITY 国際交流セクションチーフ
- なぎなた＝今浦 千信（教士）全日本なぎなた連盟常務理事
- 紫関 譲子（教士）全日本なぎなた連盟アンチドーピング委員会委員
- 銃剣道＝佐藤 亨（範士八段）全日本銃剣道連盟理事・競技力向上委員
- 小川 功（範士八段）全日本銃剣道連盟競技力向上委員
- 通訳＝アレキサンダー・ベネット 関西大学国際部教授
- ブルース・フラナガン 東京経済大学特任講師（通訳翻訳論）
- 井上 誠・リード 「KENDO WORLD」助手